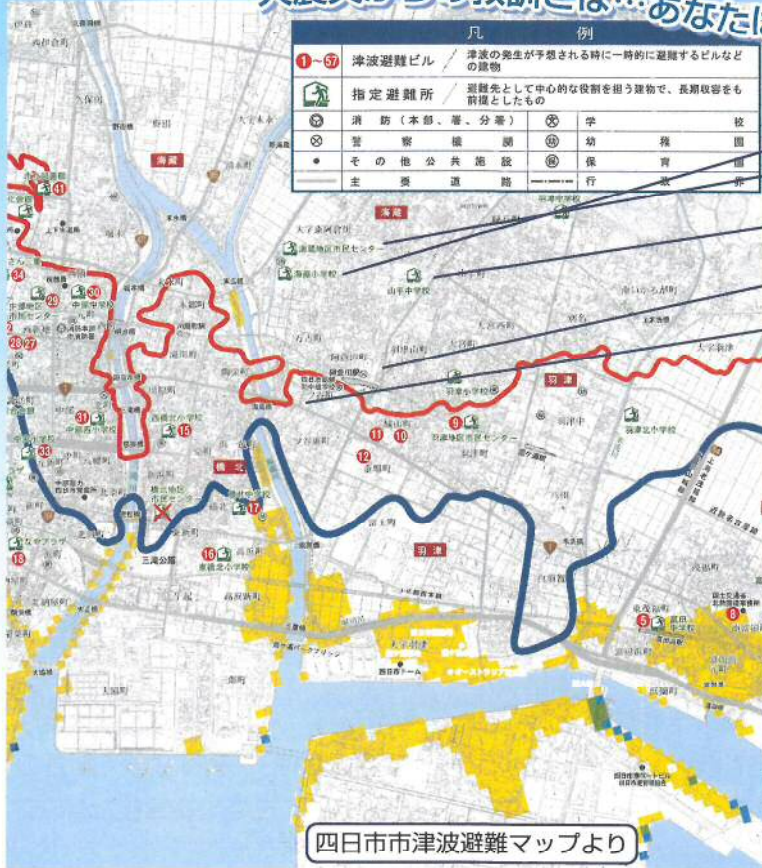


地区広報

かいぞう

未曾有の大震災を目の当たりにして
大震災からの教訓とは…あなたはなにを感じましたか。



★わが町の主な海拔表示

- 海蔵小学校 5.9m
- 海蔵地区市民センター 6.2m
- 山手中学校 14.2m
- 近鉄阿倉川駅 9.9m
- 三ツ谷町交差点 3.8m

※参考

- 大谷台小学校 44.3m
- 金場町交差点 3.9m

★わが町の指定避難所

- 海蔵地区市民センター
- 海蔵小学校
- 山手中学校

津波避難目標ライン

三重県が平成23年10月に発表した「東北地方太平洋沖地震と同等規模の地震を想定した場合の津波浸水予測図(速報版)」を参考に、避難すべき目標を示したライン(東海・東南海・南海地震同時発生 M9.0想定)

海拔5mライン

内陸部の海拔5mの地点を結んだライン

「津波してどうする…」

大震災が教えてくれたもの…『絆』

標題は東北地方に伝わっている津波の教訓。三・一一の東北大震災にその教訓は生かされたでしょうか。一旦は逃げたのに荷物を取りに戻った人。「いやあ、なに大丈夫さ」とゆっくりしていた人。防災訓練のとおり高台に逃げて被害がなかった中学生たち。逃げる途中、生徒たちはただでんどんこじゃなく足の遅い幼児を背負ってひたすら丘を目指したとか。中学生が「逃げろ」と叫びながら不安がる小学生や保育園児を誘導した。それをみた大人も事の重大さを感じて避難した。その日はほんとうに、さまざまな人間模様がありました。

やっぱり日本人ってすごいなあと思いました。我慢強いこと、秩序正しいこと、互いに助け合うことなどなど。遠く離れたこの地で、報道からほんの一部を見て聞いただけに、それでも人生の価値観が変わりました。生きるうえで大切なこと、大事にしたいこと。当たり前前の幸せに気づいたことで、熱い思いが胸を満たします。「今のこの思いを忘れてはいけない」と。そして東海・東南海・南海地震がいつ来てもおかしくないことをひしひしと感じています。「備えあれば憂いなし」東北大震災が教えてくれた自然の警告から出来る備えを、身を守る術を、今一度自分のこととして受け止めて行動したいと思います。

あなたはどこに逃げますか？
避難所は分かっていますか？

3・11未曾有の大震災を目の当たりにして

…他人ごとではない事実を受け止めて、今出来ること…

～3・11大震災で感じたこと～ 座談会から H23.12.18海蔵地区市民センター

教訓その1

自然界からの警告！…自然災害の怖さ

- 人を助けようとした人が亡くなっている。命の最優先とはどういうことなのか分からなくなってしまった。一体どうやって避難すればいいのか…勿論自分の命は自分で守る、でも一人で逃げていいのか
- 茨城で震災を体験した。震度6では立ってられない。経験したことのない液状化現象をみて、人の力ではどうにもならないことや、地変が起きた時の自然に対する無力感を感じた。自然に対する人間の傲慢さが不幸を招いたと思った。もう一度自然に対する畏敬の念を持つべきであり、自然の力に寄り添うことの大切さを思い起こした。正に現代人に対する自然からの警告である。だから次世代を担う子供たちに、今一度自然に対する昔からの言い伝えを伝えたい。…なまずと地震、蟻と水害などの言い伝え
- 子供の頃大阪で東海地震を体験したが、全く同じ思いだ。自分の命は自分で守るしかない。テレビに映し出される様子を見た驚きと、これが実際日本で起こっている事なのかと他人ごとではないと感じた。

教訓その2

身を守る

- すぐさま自分に置き換え、住んでいるところは海拔何メートルなのか、震災が起こったら家族でどう連絡するのかを話し合った。…災害伝言ダイヤルの仕方を子供たちに伝えた。
- 釜石市では小中学生の避難率が100%近くでほぼ全員が無事であった。指導を行った群馬大学片田教授は10年間生徒に「とにかくすぐ逃げろ」という防災教育を続ければ、その団塊が成人し、親になって地域の自然災害に対する感覚を変えるという。…日頃から中学生中心の防災訓練を実施してきた。独居老人との交流をはかり地域の連携を目指す。…すぐさま全国の教育現場で導入できないものだろうか。
- 東海・東南海・南海地震は必ず来る。自分たちで身を守る、山手中学校に逃げようと思う。
- 野田地区は三滝川、海蔵川の二川に囲まれ西方の市の指定避難所に逃げるしかない。
- 「逃げる」と「避難」は少し意味合いが違う。とにかく命を守るために先ず逃げる「皆さん避難して下さい！」ではなく「早く逃げて下さい！」とアナウンスすべきだ。聞いた我々は切迫感を持って逃げることに。

教訓その3

き・ず・な

- 学童保育所では震災が起きれば80人を超える児童の安全確保が必要であり指導者のみでは対応できない。病院、老人施設、保育園も同様な課題がある…これこそ地域の連携が必要となる
- 障害者、高齢者など生活弱者は一人では逃げられない。でもこれは震災時のみならず普段から地域の中で生きる事が重要である。存在を知ってもらい、共に生きる事で、どんな支援が必要なのかを伝えていくことが大切。
- 地区で防災訓練を実施する場合、はたして地域住民全員が賛同して実施されているだろうか。地区により受け入れ方も様々で格差があると思う。
- 折角震災で助かって身内を助けられなかった自分を責めた自殺があった。震災後の助合い、絆も重要。

【地域のサイレン知ってますか？】サイレンは現在海蔵地区市民センターに1機のみで、全地区には聞こえない。もっと複数個所に警報器具を設置してはどうか。サイレン音を周知させて定期的に訓練する必要があるのでは。

今回の震災を目の当たりにして、海蔵地区の方々に参加して頂き座談会を開催しました



津波って海蔵地区にも本当に来るの??

○避難場所は分かっていますか?…三ツ谷、野田、清水町には浸水の不安がある

行政マップを信用しすぎるな!安心マップになってはならない

○万一液状化現象で防波堤が損壊したら、もっと津波マップは変わるはず、コンビナート火災発生も想定したら、そんな危機感は大い。

今、災害時に備えてどんな準備をしていますか?

○枕元にいつも電話、懐中電灯を準備している

○『玄米フレーク』を毎朝食べています。…非常食も賞味期限の更新をしないとただの訓練に終わってしまう。玄米フレークは高カロリー食品で誰にでも食べやすい。日頃から避難を想定していれば無理がない。古い方から朝食にして常に非常食を更新していける。

○震災以降、運転中は演歌を聞くのを止めてラジオを聞いている。常に正しい情報収集に努めている。



皆で非常食を体験しました!! ..あなたは準備出来ていますか?..

『梅わかめご飯』アルファ米でお湯を入れて 30 分で美味しい炊き込みご飯が完成します。

『パンの缶詰』(1缶2個入り) レーズンやコーヒー味で凄く美味、賞味期限 5 年。障害者施設で製造、総合会館売店など福祉の店(イオン四日市尾平店)で販売しています。

非常食 リュックに詰めて 準備万端 でも待てよ いざという時 背負えないかも(>_<)

海蔵地区から東北へのメッセージ伝言版 (海蔵地区文化祭 H23.11.6)



海蔵地区自治会全世帯対象 平成23年度 海蔵地区総ぐるみ防災訓練実施

平成23年10月2日、海蔵地区防災会・消防分団・海蔵地区市民センター・市緊急分隊は互いに連携し、各世帯からの情報収集や伝達、地区災害対策本部の設置・運営等の訓練を実施しました。災害時には、何よりも一人でも多くの住民の皆さんが無事であり、様々な情報の収集・伝達や救助活動、また避難所の運営等に参加いただくなど、地域のコミュニティ力を発揮できればと考えます。

“まず、最善を
尽くして助かるう”
⇒助けよう

訓練参加者 【防災隊員：662名】 【自治会全世帯：3,203世帯（災害時要援護者 762名）】

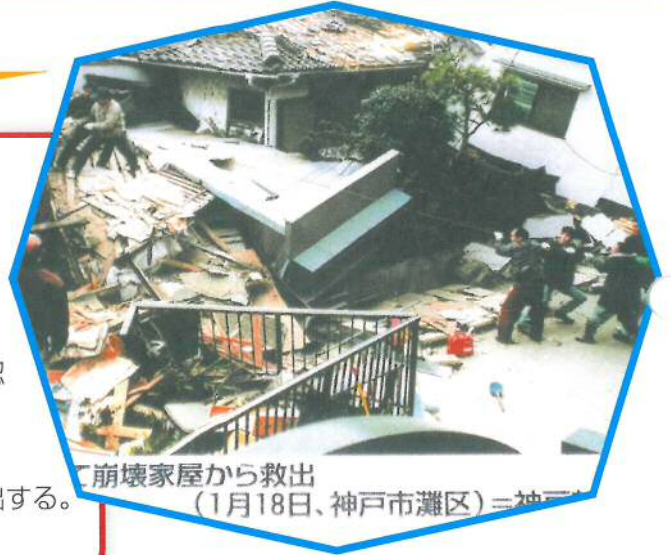
訓練内容

訓練想定：プレート境界型地震発生

四日市地域で「震度6弱」を観測

【消防分団 午前9時サイレン吹鳴：一斉訓練開始】

- 1 各世帯は、家族が無事か確認する。
- 2 決められた組内集合場所に集まり、互いに安否を確認する。特に組内の要援護者の安否を確認する。
- 3 付近の火災や救助事案に対処する。
- 4 各世帯は、組長へ家族・自宅被災状況の連絡票を提出する。
- 5 組長は、組内の各世帯の状況を掌握・集計する。



災害時の住民の初期活動（阪神淡路大震災）



町災害対策本部設置・運営

9時15分～同30分

各町自主防災隊員は、一次避難場所（公会所など）に「町災害対策本部」（以下「町本部」）を立ち上げる。

- 1 各町自主防災隊長は、組長からの集計を受け取り、町全体の被害状況を把握し、地区災害対策本部（地区市民センター）へ報告・要請する。【携帯無線による地区災害対策本部との送受信訓練として実施】
- 2 要援護者の未確認等の事案に対して自主防災隊員が出勤し、情報収集や安否確認、また必要な事案に対処する。



地区災害対策本部設置・運営

9時15分～11時20分

- 1 市緊急分隊が地区対策本部を設営し、被災地巡視する。
- 2 町本部と情報の無線交信を行う。
- 3 町本部からの被害情報を集計する。
- 4 市災害対策本部へ地区の被害報告と支援要請を行う。

11時45分～

災害時の所感・反省会を行う。

総合的成果

町民が災害時に第一番に取るべき行動の向上が図れた。

また、町災害対策本部を早期に立上げ町民の動向を掌握する訓練ができた。



あなたもチャレンジ! 防災クイズ

10月22日に山手中学校で防災クイズを行いました。
その一部をご紹介します。



Q1

地震災害は、世界中のどこでも起きていると思いますか？
正しいのはどちらでしょう。



- ①世界の中でも、決まった地域にしか起きていない。
- ②世界中どこでも起きているが、地域によって回数が違う。

Q2

「災害用伝言ダイヤル」は、何番にかけたらいいでしょうか？

- ①117
- ②171



Q3

あなたが外にいる時に、大地震が起きた場合に避難場所として正しい場所は？

- ①ガソリンスタンド
- ②コンビニエンスストア



Q4

あなたがスーパーマーケットにいる時に大地震が起きました。
正しい行動はどちらでしょう？

- ①買い物かごをかぶってうずくまる。
- ②非常口から逃げる。



Q5

地震発生後、柱に足が挟まれて長時間身動きできず苦しんでいる人がいます。あなたがとるべき行動はどちらでしょう？

- ①そのままにして、救助隊の到着を待つ。
- ②挟まれている足をマッサージする。



Q6

1981年より前に建てられた家に住んでいる場合に、間違っているのはどちらでしょう？

- ①瓦屋根であり、屋根が重いので地震にも強い。
- ②耐震性の確保のために、専門家に耐震診断を依頼する。



イサ! というときのために...

クイズの答えは6ページをご覧ください。解説は市民センター入口に掲示

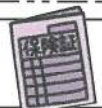
防災情報カードを書いてみましょう!

必要事項を記入して、切り取って四つ折りにして携帯しましょう。
必要に応じてコピーしてください。

本人確認ができる写真や健康保険証・診察券・薬剤情報提供書・お薬手帳のコピーも一緒に携帯するといいですね。



氏名		血液型		家族連絡先		電話番号	
生年月日	年	月	日	氏名		続柄	
電話番号	()		—	氏名		続柄	
住所				消防署 119 警察 110 ラジオ FM よっかいち 76.8MHz			
保険証記号番号				家族の集合場所			
病歴 常備薬 アレルギーの有無など				避難する場合は徒歩で。万一、通行できない場合に備えて、避難経路をいくつか決めておきましょう。自分の命を守るために、 まず避難! 津波の恐れがある場合は、より遠くより高く!			
かかりつけの病院				避難場所			



住み続けたくなるまち 海蔵をめざして みんなで進めるまちづくり



みなさん今日は。海蔵地区まちづくり構想策定委員会です。
私たち構想策定委員会は、平成22年5月の発足以来、市が策定する都市計画マスタープランの地域・地区別構想に当地区のまちづくり構想を反映するため、その検討を進めてきました。そして、昨年度の当地区広報を通じて「中間のまとめ」をお知らせし、意見の募集を行いました。その後、各課題に対する「今後の方向性」を検討し、この度「海蔵地区まちづくり構想（案）」をまとめましたので、みなさんにお知らせするとともに、ご意見を募集させていただきます。

いただきましたご意見について検討のうえ、「海蔵地区まちづくり構想」として市へ提出いたします。

テーマ1 河川の安全性向上と排水対策

《行政・関係機関へ働きかけること》

- 海蔵川に繁茂する雑木の除去
- 海蔵川堤防の強度検査の実施
- 海蔵川低水敷の滑り止め設置など、水難事故防止のための整備
- 海蔵川の危険性を高めない三滝新川〔分派〕の整備
- 三滝新川〔分派〕の整備に合わせた堀川や野田川の樋門及びポンプ場の整備

《地域組織・各種団体が取り組むこと》

- 海蔵川貯水時の救助用浮つきロープの設置や警告板の維持管理
また、水難の危険性の周知や注意喚起



雑木が繁茂する海蔵川



救助用浮つきロープ設置活動

テーマ2 地区内の交通の利便性と安全性の向上

《行政・関係機関へ働きかけること》

- 市道赤堀山城線と阿倉川西富田線の変則交差点の通常交差点化
- 野田から清水町を通る市道と365号線との交差点、三ツ谷町を通る市道と国道1号線との交差点の右折レーンの設置及び信号の改善
- 市道赤堀山城線への街路灯の設置
- 地区合意に基づく、三ツ谷町から三重地区への通称「バス通り」の水路暗渠化などによる「すれ違いゾーン」の設置
- だれもが安全に地区内を歩くことができる道路と側溝の段差解消や路側帯の確保
- 近鉄阿倉川駅南のガード下など、通学路となっている道路の路側帯の塗装や道路標識、横断歩道の設置
- 同駅前のロータリー化や送迎車両用駐車場、駐輪場の整備
- 同駅のエレベーター設置などのバリアフリー化

《地域組織・各種団体が取り組むこと》

- 登下校時の児童・生徒の安全確保のための危険箇所を中心とした見守り活動
- 海蔵川堤防道路の交差点周辺の草刈りの定期的実施



市道赤堀山城線・阿倉川西富田線交差点



小学生登校時の見守り活動

P5「あなたもチャレンジ！」の答え（正解理由は海蔵地区市民センターに掲示）

Q1：① Q2：② Q3：① Q4：① Q5：① Q6：①

海蔵地区まちづくり構想（案） まとめました

あなたのご意見を募集しています!



海蔵地区まちづくり構想（案）の詳細版と意見書用紙は、海蔵地区市民センターに置いてあります。ご覧いただき、ご意見がございましたら3月30日までに同センターへ意見書をご提出ください。

テーマ3 地場産業と歴史を生かした地区の魅力づくり

《地域組織・各種団体が取り組むこと》

- 万古焼の見学や体験機会の提供について事業者との協議・検討
- 地区の歴史や文化を紹介するための情報発信や学習会開催の検討

テーマ4 水辺空間と公園・緑地の整備

《行政関係機関へ働きかけること》

- 海蔵川を市の緑地景観のシンボルとして位置付けた自然環境保全等の観点からの緑地整備
- 堀川の樋門で分断されている海蔵川左岸河川敷の連続性のある整備、右岸との一体的整備、小杉橋より下流の河川敷への遊歩道整備
- 堀川上流部の下水道整備と接続率の向上
- 公園が無い地区への公園整備
- アイナシ自生地周辺の散策路・見学路の整備
- 垂坂山へのアプローチとしての既設市道の整備

《地域組織・各種団体が取り組むこと》

- 地区社協と各種団体が協力して行う海蔵川堤防等清掃活動の拡大
- 海蔵川の桜の手入れや堤防の美化を継続して行うボランティアの募集
- 菖蒲オーナー（「株主」）など、菖蒲園の維持管理支援の充実



保水や緑の景観保全を担う農地



海蔵庵窯跡（唯福寺）

テーマ5 計画的・合理的な土地利用の推進

《行政関係機関へ働きかけること》

- 市街化調整区域の土地利用に対する地域住民との話し合いの場づくり

《地域組織・各種団体が取り組むこと》

- 農業者の意向を踏まえた市民農園の整備など緑を保全する活動の検討



堀川菖蒲園

テーマ6 安心して暮らし続けられる居住環境の向上

《行政関係機関へ働きかけること》

- 子育てしやすい地域づくりや、ふれあい・支え合いの地域づくりの取り組みへの支援

《地域組織・各種団体が取り組むこと》

- 高齢者や障がい者等の居場所づくりや生きがいづくりのための各地区集会所を活用したグループ支援及びミニデイサービス実施の検討
- 地区防災プラン策定の検討

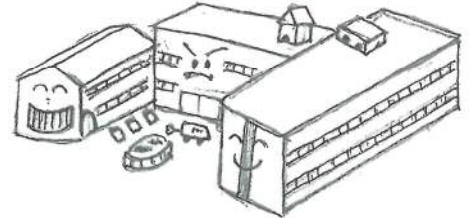


第一学童保育所（海蔵小学校内）



今回、おばちゃま探検隊が訪問したのは、通称「羽津病院」として親しまれている「四日市社会保険病院」です。庶務課の方にお話を伺うことが出来ました。院長先生にもお会いでき、緊張しましたが、ユーモアたっぷりのとても気さくな方でした。

羽津病院として創設されたのは何と明治30年で、「社会保険病院グループの第一号病院」となったのが、昭和22年、戦後間もなくです。そして昭和53年には「健康管理センター」が設立され、平成8年には介護老人保健施設「サンビュー四日市」も設立されました。医療と福祉が複合する施設となって、地域の住民にとって、特に私たちおばちゃま年齢の者にとってはとても心強いかぎりです。



社会保険庁の解体、消滅が報じられ、不安を感じていたところへ、自治会から存続について署名の要望があった折には、家族中の名前を書き連ねたことは記憶に新しいのですが、3年以内に新機構によって安定的運営になるとのことで、ホッと胸をなでおろしました。

社会保険庁の解体、消滅が報じられ、不安を感じていたところへ、自治会から存続について署名の要望があった折には、家族中の名前を書き連ねたことは記憶に新しいのですが、3年以内に新機構によって安定的運営になるとのことで、ホッと胸をなでおろしました。

当号のテーマである震災対策について

◎「災害時給水拠点」が設置されていること。

病院に必要な給水のため井戸水を使用しているが、その揚水量が予想外に多かったため、羽津地区と海蔵地区の連合自治会と災害時に飲料水を提供するという協定を結んでもらっており、私たち住民にとっては非常に心強いことです。

◎停電になったときは、自家発電装置の他に井戸水のろ過専用の発電装置があること。

◎院内の地震情報の設備は聞き取りやすい音量になっており、患者さんで動ける人でもベッドの下には入らず、ふとんをかぶるように指導しています。これは阪神大震災の時にベッドにはさまれた患者さんがいたという情報で変更したそうです。



災害時給水施設

病院の特徴の中でも特筆すべきこと

◎「チーム医療」への取り組み。「チーム医療」とは医師、看護師、栄養士、理学療法士等が一つのチームを組んで意見交換をしながら患者さんの治療にあたるシステムです。

◎「健康管理センター」での検査結果を持って病院の方へ廻り、治療の予約をその日に出来るということです。

◎「女性外来」があり、医師はもちろんのこと、スタッフも女性の方ばかりなので、女性が相談に訪れやすいところになっています。

◎「訪問看護ステーション」が老人保健施設に出来ています。外部からの訪問看護の医師と連携して24時間体制となっています。

◎「モニター会議」というものがあるのをご存知ですか。おばちゃまの一人はこのモニターの経験者です。「モニター会議」(年数回)のメンバーは羽津地区、海蔵地区からそれぞれ5名ずつのモニターと、病院側からは院長先生をはじめとする先生方、相談窓口の方(「すずらん」という名称の何でも相談窓口があります)で構成されています。会議ではモニターさんたちからの意見を聞き、病院側からは最新医療や現在の病院の状況の説明、1年を通じての院内の催し物(各種の講演、コンサート、病院まつり、クリスマス会)などが報告されます。

診療に役立てるために、さまざまな努力がなされていることを知りました。頼もしさと同時に親しみ易さも感じられるこのような大病院が身近にあることを実感出来、安心感をえました。